

第64回 Kozoom28「美術展での出会い」

清水健二

芸術の秋と言われながら今年は記録的な酷暑続きで、10月に入っても30度を超える日が多かった。それでも各所で既に予定されている美術展が開催されてきた。

その中の一つに私の所属する創造美術協会は第78回創造展を大阪市立美術館(旧天王寺美術館)で開催された。3年間耐震と改装工事のため閉館していたので、久しぶりの美術展とあって多くの来訪者で賑わった。創造美術協会は今回会員1人で複数展の出品が可能となったことや、一般公募者も多数の出品があり、絵画で131点 彫刻で38点が展示された。

私は長く協会の役員として彫刻の審査員を務め、授賞する役目を担ってきたが、今回はその功績を含めて美術館長賞を頂戴し受賞する立場になって表彰式に臨んだ。

対象の作品は「絆の輪シリーズ」でほぼ同じ大きさの作品を揃えたもの4点と、仏教国ビルマ(現ミャンマー)の僧がまとう赤褐色の袈裟と托鉢を持つ人物像を加えた5点を出品した。

表彰式後の懇親会に、私のテーブルの隣に絵画部から100歳の女性がスピーチに立たれた。その言動の力強さに驚きもし元気をもらった。早速スマホで写真を撮った。

一方 協会誌に投稿されたエッセイを拝読し、社会との繋がりを持ち続け生きていく事の大切さを感じた。ちなみに私のエッセイも掲載されているのでご高覧願いたい。

今年の6月中旬には在住する八尾市で恒例の第68回の八尾美術展が開催され、一般の公募を含めコロナ禍以前に戻ってきたようで、多くの出品が出揃った。その中に、10数年も前に同じ絵画クラブで一緒に絵を描いて



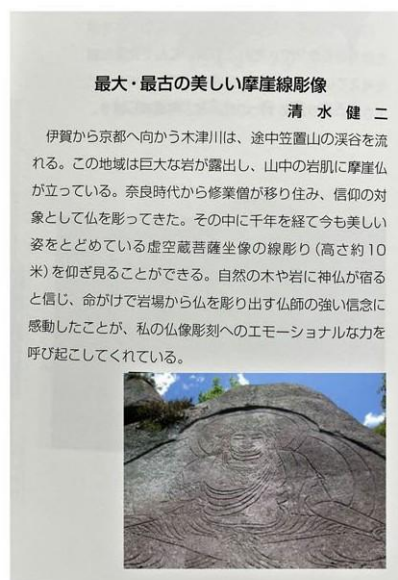
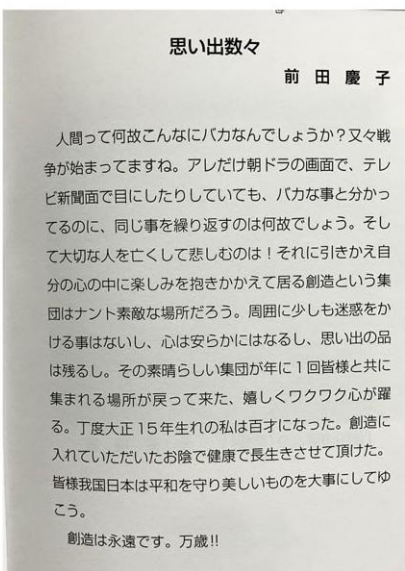
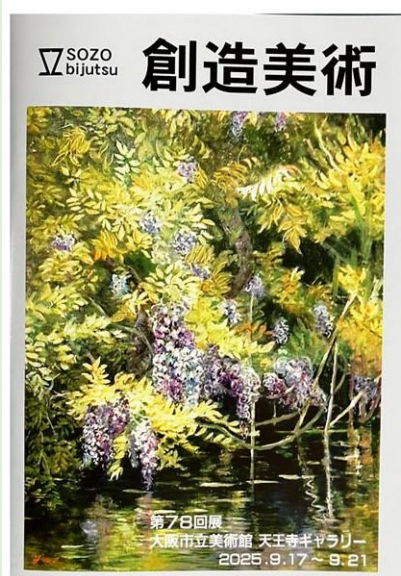
表彰式で受賞



出品作品(大学時代の友人と)



100歳のスピーチ



協会誌からMさんと私のエッセイ

いたT氏が審査員特別賞を受賞し、表彰式に出席されていて私もお祝いの言葉を掛けたが、なんと99歳になられていて、丁寧な筆運びでこの歳で良く描けたものだと思いますが私も負けておれないと感じた。来年100歳にも出品してくださいと激励されていた。

今年2025年の9月現在100歳以上の人口は99800人で記録更新しつつあるという。

内女性は88%で世界一長寿国である。どこまで伸びるかわからないが、兎に角人生のあり方を考え、人生のラストスパートを幸せで楽しく走り抜きたいものだと思う昨今である。

令和7年10月 記



99歳のT氏の作品